
命日の手紙

帽子屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

命日の手紙

【Nコード】

N3700A

【作者名】

帽子屋

【あらすじ】

「…命日には、帰って来れますか？」母は息子に手紙を書いた。だが、それは…。

一雅人へ

元気ですか？

あなたがこの家を出て、今日でちょうど、二年が過ぎようとしています。最初のうちは、急に家の中がガランとして、寂しくもありましたが、それも慣れました。今は一人、悠悠自適な毎日を過ごしています。

そちらはどうですか？あなたの事だから、食事も外食で済ませてばかりいるのではないかと、心配しています。簡単でいいから、自分で作って食べなさい。栄養が偏りますよ。

こちらではそろそろ、庭の菜の花が咲こうとしています。お父さんが逝ってしまったから、ほとんど手入れも出来ず、荒れ放題だったのに。植物も、一生懸命生きているのですね。私も頑張らなければ。

もちろん、あなたもね。

そういえば、今年のお父さんの命日は、帰ってこれそうですか？お祖父ちゃん達も、久しぶりにあなたに逢いたがっています。いろいろ忙しいとは思いますが、是非時間を作って、帰って来てください。私も、あなたに逢えるのを楽しみにしています。

それでは、くれぐれも身体には気を付けて。たまには、連絡くださいね。

母より一

…音がした。

ざしゅ。

土を掘る音。

真夜中の、とある一軒家。庭の片隅に、人影が見える。

庭には、一面の菜の花。

ざしゅ。ざしゅ。ざしゅ…。

と、唐突に音が変わった。

地面に、何か金属を投げ捨てる音。

木の板が擦れる音。

強い異臭がした。

庭の片隅。朽ち果てた棺に手紙を入れると、彼女はいとおしそうに、中を覗き込んだ。

そして、笑う。

歯を剥き出し、目を輝かせて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3700a/>

命日の手紙

2010年10月28日07時07分発行